

2020年5月29日

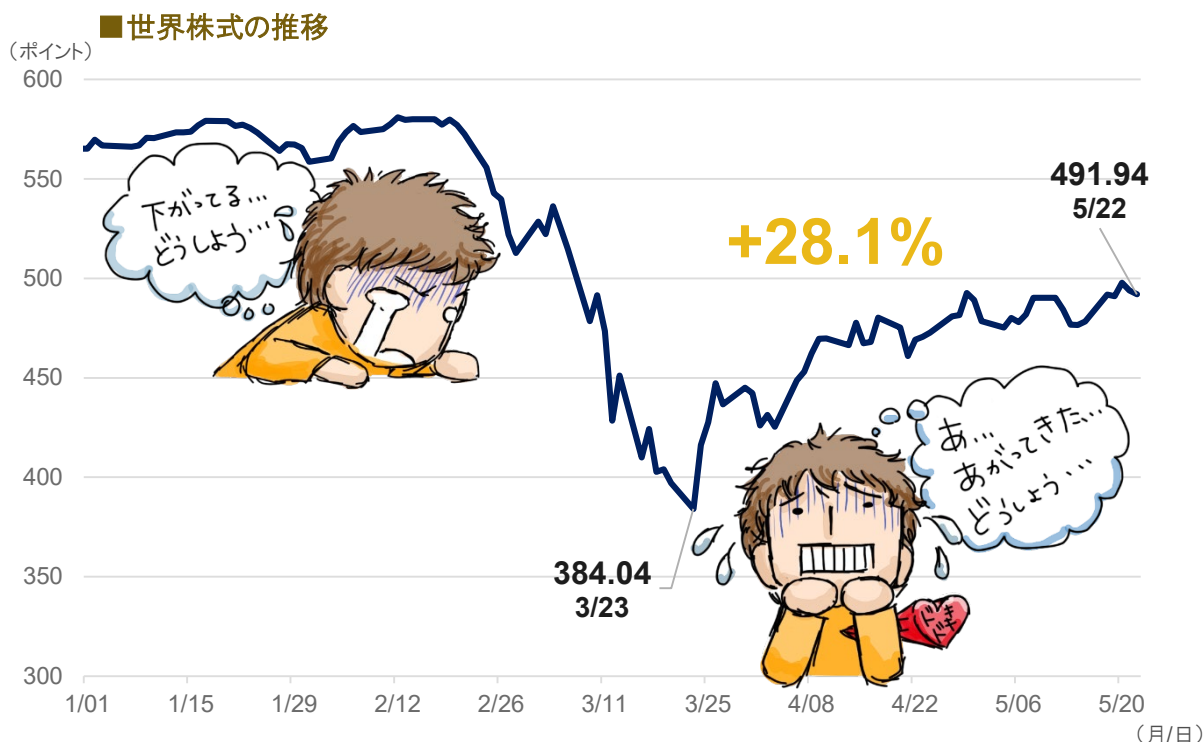
Vol
136

高く売って、上がる前に買い戻す？ 大切なのは、マーケットに居続けることです。

2月から3月にかけて大きく下落した世界株式は、徐々に落ち着きを取り戻しはじめています。世界株式の値動きを示す「MSCI ACワールド指数」は、3月23日から28.1%上昇*しています。

短い期間で大きく下げた後の上昇であったことに加え、新型コロナウイルスが終息したとは言えない状況下での上昇であったためか、「いったん売却した方がよいか」「再び下がった時に買い直すのはどうか」という売買のタイミングに関するお問い合わせをいただくことがあります。

*5月22日時点



期間: 2020/1/1~2020/5/22(日次)

世界株式: MSCI ACワールド指数(米ドルベース)

出所: 信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※データは過去のものであり将来の運用成果などを約束するものではありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



売買のタイミングを計ることをお勧めしない2つの理由

「高く売って、上がる前に買い戻すことができれば」と考える方は少なくないようです。しかし、2つの理由から売買のタイミングを計ることはお勧めできません。

1つ目の理由:「上がる前に買う」は、決して簡単なことではない

たとえば、直近の安値*となった3月23日は、さまざまな国で外出制限などの非常事態宣言が発表されたころ。多くの市場参加者がパニックになるなか、「いまだ」と投資を決断するのは容易ではなかったはずです。

*5月22日現在

2つ目の理由:大きく上昇する日を逃してしまうと、リターンに大きな影響が出る

世界株式は、約20年でおおよそ1.4倍と大きなリターンを生み出しています。下の表は、当期間において一日あたりの上昇率が大きかった順に上位10日を抽出したものです。そして折れ線グラフの赤色の線は、この10回の上昇時に投資をしていなかった場合のリターンをシミュレーションしたものです。極端な例ですが、約20年間継続して保有した場合(青色の線)と比較し、たった10回の上昇を逃してしまっただけで、リターンに大きな差が生まれてしまうのです。

■世界株式の推移と1日の上昇率が大きかった上位10日を逃した場合のシミュレーション



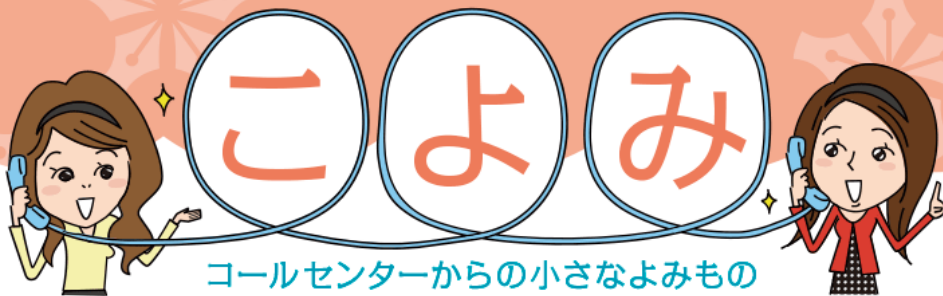
期間: 2000/1/3~2020/5/22(日次) 2000/1/3を100として指数化

世界株式: MSCI ACワールド指数(米ドルベース)

出所: 信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※データは過去のものであり将来の運用成果などを約束するものではありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

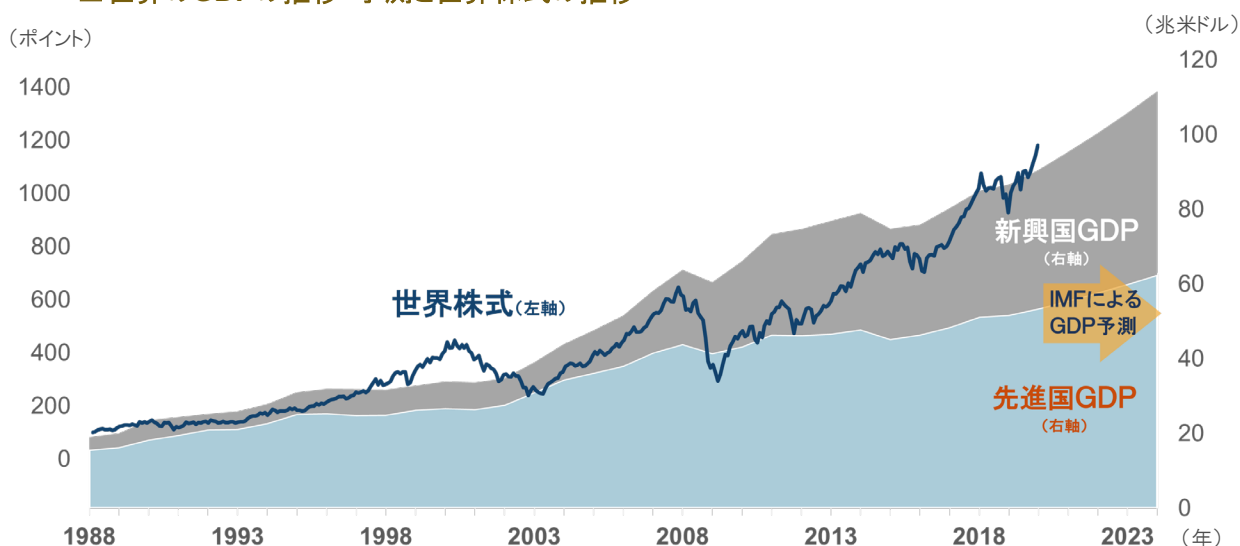


大切なのはマーケットに居続けること。なぜなら「経済は右肩上がり」だから。

私たちにはもっと豊かに暮らしたいという際限のない欲求があります。さまざまな企業が私たちの欲求に応えるため製品やサービスを産み出そうと努力しています。そうした企業活動を集積したものが経済です。だからこそ、私たちに欲がある限り経済は右肩上がり、ある意味で楽観できるのです。一方で、企業の努力は売上や利益として表れ、角度の差こそあれ株価に反映されていきます。

昨年末時点までのグラフを見ると、世界の経済成長と世界の株価は、長期で見れば面白いほどリンクしていたことが分かります。これからコロナ・ショックの影響を受けて経済規模が大幅に縮小することは避けられませんが、大切なのは覚悟を持ってマーケットに居続けることです。

■世界のGDPの推移・予測と世界株式の推移



GDP: 1988年～2024年(予測)、世界株式: 1987/12末～2019/12末

IMF「World Economic Outlook Database, October 2019」および信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
世界株式: MSCI ACワールド指数(配当込、米ドルベース)

※グラフ・データは過去のものおよび予測であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00～17:00



■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。